



## 皮膚・排泄ケア 認定看護師

上西裕美

当院には2名の皮膚・排泄ケア認定看護師がおります。私たちは、主に床ずれの予防・治療のケアをはじめ、難療病が引き金となり生じる下腿潰瘍、抗悪剤治療や放射線治療によって生じる皮膚障害に対して、創ができた原因を考え、創を治すための環境を整えます。形成外科医師、手術室看護師とともに褥瘡（床ずれ）予防チームを結成し、チームの一員として院内の床ずれの発生状況を把握し、発生の予防と対策・ケアにあたっています。「ストーマケア」では、人工肛門や人工膀胱を持つ患者さまのケアが主となります。手術前のご説明や準備をはじめ、入院中のケアはもちろん、退院後はストーマ外来にて、ストーマを保有している患者さまが安心して日常生活が送れるようサポートをいたします。「失禁ケア」では、排尿障害及び排便障害に伴う皮膚障害の改善とその予防を行います。皆様の皮膚の健康と排泄に関するサポートをさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。



## お答えします No.7

Q: この情報誌はどこで作成しているのですか？  
A: 事務部総務課広報係が担当しています。病院のパンフレット作成、ホームページ作り、取材対応等毎日忙しく動いています。患者さん向け情報誌「Eyeむさしの」は年4回、1月・4月・7月・10月に発行しています。ぬくもりのある情報誌ができるようこれからも頑張っております。

総務課 広報係

早咲きの桜が2月初旬につぼみをつけ、  
あつという間にこらんのとうり。



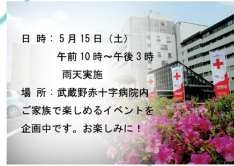
編集撮影: 病院薬剤師  
撮影: 広報係  
日時: 2月2日  
午後2時ごろ

## 病院で行っているこんなこと

武蔵野赤十字病院では患者さんやご家族、地域の方が参加できる様々な教室や講習を行っています。  
糖尿病患者さんの会や循環器の患者さんの会があります。病気の事を学び、心強い専門医の元で快適な生活を送るための知識などを共有する目的で定期的に開催しています。  
赤十字の講習活動では赤十字救急法をはじめ幼児安全法などの各種講習会を開催しています。これらは医療社会事業課という赤十字活動を推進するセクションでご案内しています。  
プレおばあちゃん教室、両親学級などこれから産まれてくる愛らしい赤ちゃんを迎える準備を母子保健相談室でご案内しています。こちらは母子保健相談室へ、その他のお問合せは医療社会事業課となります。



むさしの  
ふれあい 赤十字デー



日時: 5月15日(土)  
午前10時～午後3時  
雨天実施

場所: 武蔵野赤十字病院内  
ご家族で楽しめるイベントを  
企画中です。お楽しみに!

2010年 春

季刊 情報誌



No.24

武蔵野赤十字病院

〒180-8610  
東京都武蔵野市境南町1-26-1  
TEL 0422-32-3111

発行 総務課 広報係

アイ  
Eyeむさしのは患者さま向けの情報誌です  
ご自由にお持ちください



小児科の病棟では、薬剤師が良護者の方とお子様本人にも  
お薬の使い方や注意などをお薬説明書も使ってお話しています。  
病棟薬剤師 宮前 玲子

## 基本理念

- 病む人への愛
- 同僚と職場への愛
- 地域住民と地域への愛
- 地球、自然、命への愛

## 基本方針

- (1) 患者・家族から信頼される安全な医療を提供する
- (2) 地域中核病院としての機能向上を図る
- (3) 地域の医療機関・行政と連携して市民が安心して住める地域づくりを進める
- (4) 質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続する
- (5) 働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくる

# 外来における糖尿病フットケアの紹介

一生、ご自分の足でいきいきとすごせますよう



看護部看護係長 糖尿病看護認定看護師  
豊島 麻美

糖尿病神経障害は、血糖コントロールが不良の場合、早  
い人で2年から5年で発症します。初期の症状は、足裏の感覚異

常（薄い紙が貼りついているような感覚や玉砂利の上を裸足で歩いている感覚）や、痛  
み（じんじん、チクチク）、ふくらはぎのこむら返りなど。それを感じつても血糖コントロ  
ールが不良な状態が続くと、やがて痛みやしびれがなくなってきました。患者さんはあ  
たかも「治った!」と、錯覚します。この状態は傷や痛みに反応しない危  
険な状態になっているということです。しかし、全員が足の腫れで切断  
に至るわけではありません。足腫れの原因の60%が靴ずれ20%がやけ  
どによるものといわれています。



## 1. ご自分でできること

- ・毎日足を良くみる、よくさわる（擦り傷、靴ずれ、むくみ、ひび割れをチェック）
- ・毎日足を良く洗う（特にゆびの間は、石鹸を良く泡立て、手の指で優しく丁寧に）
- ・洗った後は保湿クリームをつけてマッサージ（優しくいたわるように）
- ・室内でも靴下をはく（裸足は禁物！感覚の悪い人は、足裏に滑り止めがついているもの）
- ・靴下は白っぽいものを選ぶ（出血があった時に気づきやすい）

## 2. やってはいけないこと

- ・やけどに注意（電気あんか、湯たんばは寝る前に電源を切る、はずす。  
使い捨てカイロは貼りっぱなしにしない…  
60度の温度で10分貼り付けていると低温やけどになります）
- ・深爪は厳禁！両端はまっすぐ切りそろえる。後でヤスリをかけ、なめらかに。
- ・窮屈な靴は履かない（外反母趾予防）、脱げやすいサンダルは履かない。
- ・喫煙（タバコのニコチンは血管を収縮させ、血流を悪くします）

## 3. 専門家に任せること

- ・胼胝（タコ）、鶏眼（ウオノメ）は自分で処置しない。
- ・水虫がある場合は、皮膚科の診察を受ける。

一番大事なことは、**血糖コントロールを良好にすること**です。

内分泌代謝科外来では、通院中の糖尿病患者さんで糖尿病足病変のリスクが高い方を対象に「予防的フットケア」を行っております。

足の痛みやしびれにお悩みの方や、ご自身でのケアが難しい方は受診の際、医師・看護師にご相談ください。



## 赤十字事業と武蔵野赤十字病院

日本赤十字社では国際救援・災害救護・医療事業・血液事業・  
社会福祉活動・青少年赤十字活動の推進・赤十字ボランティア育成・  
講習普及事業・看護師等の養成という事業を主にしています。



緊急救護のようす

日本赤十字社で医療事業を担う当院は、

- ・地域に根付いた医療を提供します。
- ・職員に専門試験や研修を受けた国際派遣委員がおり海外で国際救援開発協力を行います。
- ・国内災害時はすぐにつけかけ災害医療救護活動を行います。
- ・隣接施設に血液センターがあり病院の連携もスムーズです。
- ・「子供の家」という観覧で暮らす事が難しい子供達のための社会福祉施設も隣接しています。
- ・学校の職場体験を受け入れ、青少年赤十字活動につながるようになっています。
- ・病院は沢山のボランティアさんに支えられています。
- ・赤十字救急法等の講習会を開催します。
- ・日本赤十字看護大学武蔵野キャンパスが隣接し、学生達は当院で実習をします。  
このように赤十字がギュッと詰まった病院です。



## 災害救護訓練実施

ハイチ地震・チリ地震だけではなく、世界のどこかで大きな自然災害が  
頻発しています。関東でも近い将来大きな地震が起きると言われています。  
赤十字は戦争の患中にも傷ついた人々を敵味方関係なく、「人間の尊厳を大切に」  
と救助したのが始まります。傷ついた人々の苦痛を軽減するのは地震などの  
自然災害の時でも同じ事です。赤十字ではそのような時にすぐに対応できる  
よう日頃から定期的に訓練を行っています。



救護訓練のようす

3月13日（土）、武蔵野赤十字病院と日本赤十字本社など他の赤十字施設、東京 DMAT（災害派  
遣医療チーム）と合同で訓練を開催いたしました。地域の皆さまを災害から速やかに救助する  
訓練です。また毎年夏には武蔵野市と地域の皆さんと合同の防災訓練を境南小学校で行います。

## インドネシア赤十字社ポゴール病院保健医療支援事業



薬剤師 原田 真理

今回私はインドネシア赤十字社ポゴール病院保健医療支援事業で、インドネシア  
に2月25日から3ヶ月間派遣されることになりました。日本赤十字社は2005年  
からインドネシアの首都ジャカルタから南約60kmに位置するインドネシア赤  
十字社ポゴール病院の支援をしています。地域の中核病院として機能するポゴ  
ールの機能向上・維持に必要な医療資機材の支援と日本赤十字社の医療施設から

医師・看護師などを継続的に派遣し現地の医療スタッフ等に助言や指導を行っています。薬剤師と  
して私は2人目の派遣になります。まずは現地の医療スタッフと信頼関係を築くことに努め、現地  
の医療状況や熱帯特有の病気などの理解も深めたいと思っています。現地の生活や文化を理解そ  
して尊重しつつ、武蔵野赤十字病院での私の業務や経験を現地の医療スタッフと共有することによ  
りポゴール病院の医療サービスの向上に少しでも貢献できればと思っています。